

# ロボゴング

市販二足歩行ロボット公開競技会

# ロボファイト

2005年4月3日に行われた「市販二足歩行ロボット競技練習会&交流会」ロボゴングと、5月8日に開かれた「市販二足歩行ロボット公開競技会」ロボファイト。どちらも市販二足歩行ロボット限定のイベントだったが、オリジナル機中心のROBO-ONEなど何が違ったのだろうか？



あずさ  
梓 みきお

「市販二足歩行ロボット競技練習会&交流会」ロボゴング  
とき：2005年4月3日 場所：大阪産業創造館 6F会議室

## KHR-1 オンリーの「練習&交流会」

昨年6月に発売され、1年で1500機以上が市場に出た、大ヒット二足歩行ロボットキット「KHR-1」。

しかし、これだけKHR-1が売れていたというのに、これまで二足歩行ロボットユーザーが遊ぶ「場」は、非常に少なかった。そもそも室内で遊ぶものだから、他のユーザーと交流する機会はほとんどない。二足歩行ロボットのイベントといえば、ROBO-ONEとロボカップのヒューマノイドリーグくらいで、どちらも「市販機を買って、初めてロボットの世界に入りました」という人には、とてもじゃないが敷居が高い世界だ。「買ったはいいけれど……」という人は、実は結構多かったんじゃないだろうか。

そんな人に福音をもたらすようなイベント「ロボゴング」が、4月3日に大阪産業創造館で行われた。掲げられた看板は「市販二足歩行ロボット競技練習会&交流会」。つまり、メインディッシュは「練習」そして「交流」と言い切っているイベントである（写真1）。



写真1

参加機体も「KHR-1」と「KHR-1に改造を施したもの」に限られていたので、初心者ユーザーにとっても、気軽に参加しやすい雰囲気になっていたと思う。

## 見た目は似ていても、動くが違う

今回のロボゴングは、あくまで「練習&交流会」だったのだが、競技の雰囲気を経験してみよう、という趣旨で「格闘競技」が行われた。

会場に集まったのはKHR-1が15機。完全なノーマルの機体から、純正オプションを使用した“おとなしい”改造を施した機体まで、さまざまな……いや、見た目ソックリなロボットたちが揃った。

顔をつけたり、プラモデルのガワをかぶせたりと、他の機体と区別できるドレスアップをした機体もあったが、多くはノーマルにシールを貼ったくらいの差。競技開始前には「これでは格闘が始まったら区別が付かなくなるのでは……」と心配になってしまったほどだ（まあ、有線コントロールであれば、ケーブルをたどればわかるのだけれども）（写真2）。



写真2

しかし、機体が動くときこう見分けがつくのである。最初は不思議だったが、しばらく見ているうちに謎が解けた。モーションが違うのだ。

例えば、「歩く」という動き一つとっても、早歩きだったり、慎重だったりという違いがあるし、パンチのモーションもストレートだったり、叩くような動きだったり、ほとんどの人がオリジナルの動きを盛り込んでいる。

そのため、しばらく見ているとロボットの個性が見えてくるのだ。「このロボットはちょこまかしてるなぁ」とか「慎重な性格なのかなぁ」とか。これは意外な発見だった。



写真3 ロボゴングのリング。真ん中の白い部分がリングで、その外が場外エリア。柔道の会場をイメージしてもらえば、わかりやすいと思う。

## ロボゴングならではの“発射体”

この格闘競技、「競技」とはいいても「強くなる改造（ex.サーボの換装）をしている人にはペナルティを与える」というくらい、敷居の低いもの。

ルールも「攻撃して相手を5回ダウンさせたら勝ち。攻撃を受けてのダウンで10カウント以内に立ち上がれなかったらKO」という大まかなもの。

そして、ロボゴングならではのルールとしてプラスされたのが「発射体による攻撃」だ。「発射します！」と宣言してから攻撃して、相手の胴体に命中すれば1ダウンを奪える。非常に有効な攻撃だが、そんな戦略的な意味をすっ飛ばして、ロボットが発射体で攻撃するという事実は、ロボット好きにはこたえられないシチュエーションだ。

当日、会場に登場したKHR-1の中で、発射体を搭載していたのはただ1機、「thinkmover2005（thinkmover）」だけだったため、注目度は抜群（写真4）。「ミサイル発射！」の掛け声が出るたびに、会場は盛り上がりを見せた。

## いざ、トーナメント戦

敷居は低くても、勝負になると思わず本気は出てしまうもの。結局、アツい戦いとなった。試合結果もレポートしよう。

15機のうち、この春のROBO-ONE J-classに出場していた「イカ・de・スカラー（イカロス）」と「ばけーしょん（やなか6丁目）」が出場しており、格闘経験に一日の長があるこの2機が本命かと思われた。

しかし、そう上手くはいかないのが戦いというもの。「イカ・de・スカラー」は勝ち上がったものの、「ばけーしょん」が1回戦で敗退。いきなり波乱の展開が待ち受けていた。

発射体を装備した「thinkmover2005」は「PC Watch」のライターである石井氏の